

姫路市蝶「ジャコウアゲハ」の幼虫の食草

ウマノスズクサの挿し木



監修：ジャコウアゲハが飛び交う街姫路 連絡協議会

ウマノスズクサ（馬の鈴草）

学名： *Aristolochia debilis*

ウマノスズクサ科ウマノスズクサ属の多年生つる植物で、和名の由来は、葉が馬の顔に似ていて、花の球形の部分が馬の首に掛けるような鈴に似ていることから命名されたという説と、単に「花の形が馬の首に掛ける鈴のようだ」ということから命名されたという説があります。このウマノスズクサは、姫路市蝶「ジャコウアゲハ」の幼虫の食草でもあるので、挿し木でウマノスズクサの増殖に挑戦してみましょう。



姫路市蝶 *Atrophaneura alcinous* 「ジャコウアゲハ」

なぜ姫路市の市蝶になったのでしょうか

平成元年に姫路市は、市政百年を迎え、「市蝶」にジャコウアゲハを制定しました。それは次のような理由からです。

その1 瓦紋が「揚羽蝶」

姫路市のシンボル姫路城には、築城主池田輝政の家紋「揚羽蝶」の瓦紋が多数用いられています。



その2 お菊の化身は蝶のさなぎ

「播州皿屋敷」の悲劇のヒロインであるお菊さん。その化身といわれているのが、「お菊虫」。実はジャコウアゲハのさなぎなのです。



1.



1,000CCの水に2滴の割合で植物活力液「HB-101」を注ぎ、よく攪拌をします。挿し穂を水に浸すのも、挿し木をした後の灌水管理も、全てこの割合の活力液を使用すればより苗の生育がよくなるでしょう。

2.



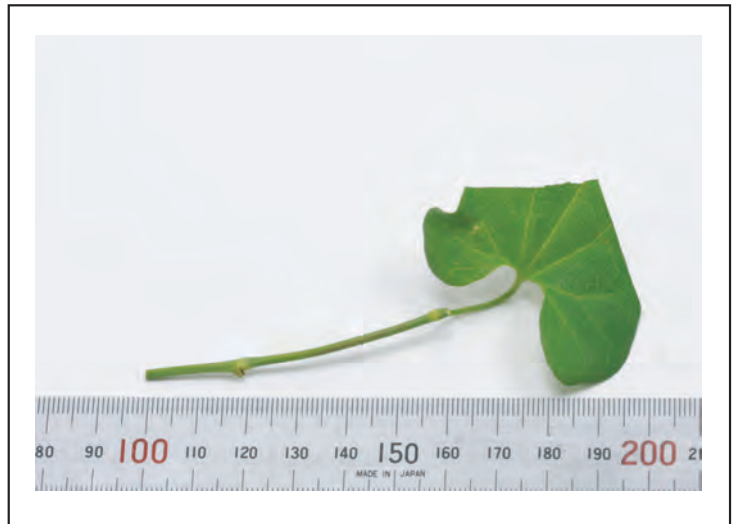
挿し穂にするウマノスズクサは、日光をよく浴びて育った勢いのある若い枝を選びます。また強く曲げても折れないような柔らかい枝や部分は使えません。採取したら、切り口を2度切りしてすぐに活力液を入れたバケツの水で充分水揚げをします。

3.



採取したウマノスズクサ

4.



ウマノスズクサの挿し穂の様子

尚、このときに使用する鋏やカッターナイフは事前に砥石で研いで、よく切れるようにしておくことが大切です。

❌ 植物の挿し木の時期は、新梢が充実する6月の上旬が理想といわれています。

5.



下の葉柄から約2センチ下で切ります。
葉柄を2枚残してその上で切ります。

このとき切り口から空気が入らないように、挿し穂を切るときは水の中で切ります。

6.



下の葉柄は用土の中に挿すために茎から約2ミリのところで切り落とします。

7.



挿し穂の負担を軽くする為に葉の面積を半分ぐらいに切ります。こうすることで、挿し穂の水分の消費量（蒸散も含めて）を減らして、しおれたりするのを防ぎます。

写真の5・6・7の作業は水中での作業になります。

8.



挿し穂は、写真1で作った活力液に約6時間くらい浸して、しっかり水揚げをします。

この間に挿し穂を挿す用土の配合などの準備をすれば、効率よく作業をすることがができます。

9.

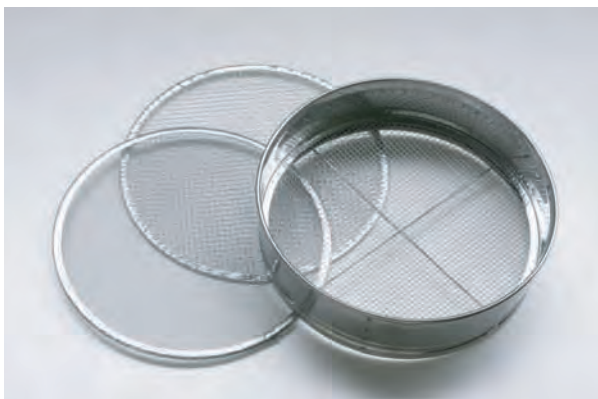


10.



挿し穂を挿す用土は、できるだけ粒が小さいものがうまくゆきます。
 今回のウマノスズクサの挿し木に使用する土は「赤玉土の小粒」と
 「鹿沼土の細粒」をホームセンターや園芸店で求めて使用します。

11.



園芸店で販売している「ふるい」
 を使って挿し木をする用土の粒を
 選別します。

12. 今回使用する用土



赤玉土を4ミリ目のふるいを使っ
 て右の大粒を選別します。
 次にふるいで落ちた赤玉土と、鹿
 沼土を1ミリ目のふるいで微塵を
 抜き、その微塵は破棄します。
 挿し木に使用するのは、赤矢印の
 2種類の赤玉土と鹿沼土です。

右の大粒の赤玉土は植木鉢の底
 に入れて、排水効果をよくする為
 に使用します。

13.



14.



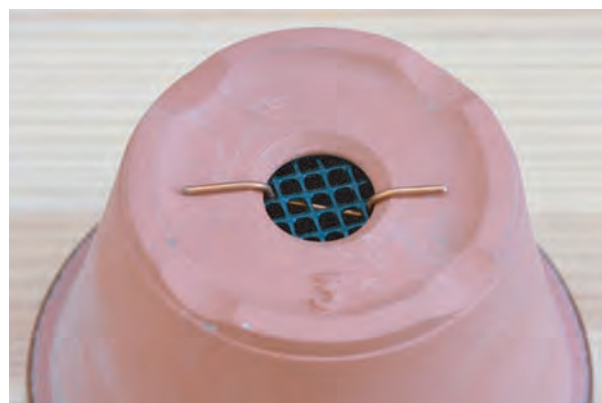
ふるいで選別した、赤玉土 5・鹿沼土 5の割合で等量配合して挿し穂をさす「挿し床用土」にします。

挿し床用土に使用する土は、雑菌や肥料分を含まない清潔な新しい土を使用しましょう。

15.



16.



鉢底ネットを植木鉢の底穴より二まわりぐらい大きく切り、写真のようにアルミ盆栽針金で固定します。

今回使用した植木鉢はは3号の駄温鉢です。

17.



前ページの写真 12. の右側の大玉の用土を植木鉢の底に2センチぐらい敷くと灌水時の水はけがよくなります。

18.



写真14で赤玉土と鹿沼土を等量配合した用土をよく混ぜて植木鉢に入れます。

19.



植木鉢の底から濁り水が出なくなるまでジョーロでたっぷりと水をかけます。

これを怠ると微塵が鉢底に張り付くために、水はけが悪くなってしまいます。

20.



下の葉柄のすぐ下のところからカッターナイフで形成層が5～7ミリ出るように斜め切ります。このとき形成層をたくさん出すために反対側の表皮も少しだけ削ります。

カッターナイフの代わりに、髭を剃る安全カミソリを使ってもよいでしょう。

21.



葉柄のすぐ下から形成層が5～7ミリ出るようにカッターナイフで斜めに切ります。

このときカッターナイフの刃はライターなどの炎で殺菌をしておけばより安心です。

22.



出来上がった挿し穂の様子です。

カッターナイフで切る部位は、挿し穂を挿した時に切り口が下になるように、葉を裏側にして切れば葉の表面が上になります。

23.



水を与えたので挿し床の土が固まっています、祝い箸などの棒で約3センチぐらい、45°の斜めの角度で穴をあけて、挿し穂を挿せば切り口が傷みません。

24.



このときに箸の先端から3センチのところにサインペンなどで目印を付けておけば均一の深さに穴をあけることができるでしょう。

25.



写真の24であけた穴に切り口が下になるよう挿し穂をゆっくり挿します。

26.



挿した後は、挿し穂と土がより密着するように指で穂の根元を押さえます。

27.



挿し穂を挿した後の管理は、1,000CCの水に2滴の割合で植物活力液「HB-101」を入れた水をたっぷり与えます。

保管場所は、環境の変化への対応という意味と、何よりも水揚げが自力で出来ない訳ですから、直射日光を避け、強風の当たらない半日陰に安置するのがよいとされています。湿度を保ち、蒸散を出来るだけ抑えるのがポイントです。普通は挿し床の上に遮光ネットなどをかけ、用土が乾かない程度に灌水をすればよいでしょう。

約2ヶ月の間は日陰で管理をし、わき芽が伸びてきたら徐々に日光に当てるようにします。

28.



路地への植え替えの時期は、翌年の3月の上旬が目安ですが、もう少し大きなビニールポットに植え替えて、畑などで大きく育ててから翌年に植え替えてもよいでしょう。

29.



30.



挿し木苗を大量に作る場合には、写真のような連結ポリポットが便利です。写真は2.5号（75ミリ）の黒ポリポットです。

31.



32.



写真のように畑で管理する場合には、すだれを利用して日陰を作ります。私の場合は、夕方にすだれをはずし活力液を灌水して、挿し木苗を夜露にあて、朝方にすだれを掛けて日陰を作っています。後で解ったことですが、写真のような挿し木箱にポット苗を入れるよりも、直接畑の土にポット苗を埋めるほうが生育がよいように思います。埋める深さはポットの淵が1センチぐらい出るぐらいで、その時にポットとポットの間をタテ・ヨコそれぞれ1センチぐらい空け、ポットの中に畑の土を入れるようにすればより後々の管理が楽になるでしょう。

※ このウマノスズクサの挿し木は、私が色々な植物の挿し木をした経験を元にしてはいますが、なにぶんウマノスズクサの挿し木は今回が初めての経験ですので全く実績のデータがありません。従って管理や灌水の方法はこれでよいのか？、またいつ頃に移植をすればよいのか？、など未知の部分が大半です。これから各方面からの情報を収集してより完成度の高い資料を創りたいと思っています。どうぞ皆様のご協力をお願い申し上げます。

33.

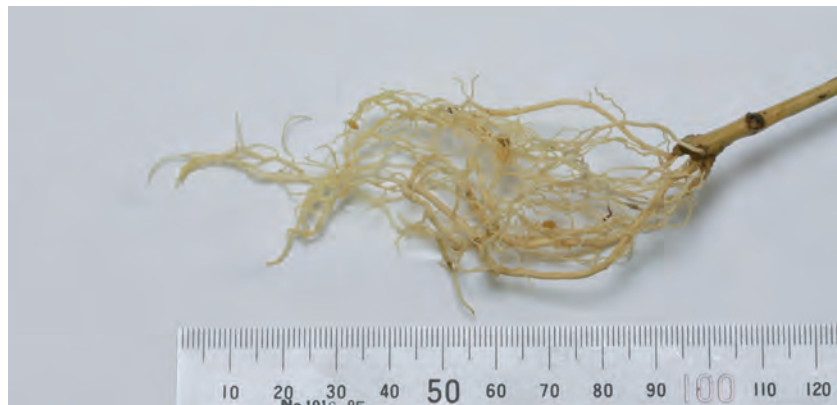


34.



畑で育てているウmanosuzukusaの挿し木苗

35.



6月10日に挿し木したウmanosuzukusaの
10月25日現在の発根状態です。

 **facebook**「姫路ジャコウアゲハ倶楽部」でも
ジャコウアゲハの情報を発信中です。
<https://www.facebook.com/himeji.jakouageha>

— お願い —

このウmanosuzukusaの挿し木資料はまだ未完成です。
内容の追加・訂正・修正箇所などどんな些細な事でも結構ですから、
皆さまお気づきの事項や詳しい情報などを寄せていただければ幸いです。
皆様のご協力を戴きまして、より充実した資料に仕上げたいと思
いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

連絡先

Shigeo Miyama

三山 茂夫

au:090-3615-2996
SoftBank:080-4026-2996
Mail:heartec3mt@ezweb.ne.jp
P C Mail:heartec3mt@gmail.com